

[公益6] この法人の事業に対する理解の普及

6-1 機関誌の発行、情報公開

<事業計画>

公益目的事業について理解と協力を得ることを目的に、全国の大学及び関係機関に機関誌「大学教育と情報」の発行とインターネットによる発信を行う。また、全国の大学関係者に事業内容の理解を普及するため、九州、関西・中四国、東海、東北、北海道の5地域で事業活動報告交流会を実施する。

<事業の実施結果>

「事業普及委員会」及び「事業普及委員会翻訳分科会」を継続設置して、機関誌の発行、海外情報の選定・翻訳、インターネットによる情報公開・配信・意見収集、事業活動報告交流会を通じて、本協会が実施する公益目的事業について理解の普及を行った。以下に、委員会及び事業活動報告交流会の活動状況について報告する。

事業普及委員会、翻訳分科会

事業普及委員会は、4月14日、5月21日、7月18日、8月8日、10月19日、11月16日、平成31年2月23日に平均5名が出席し、7回開催した。公益目的事業の理解普及を推進するため、年間4回の機関誌「大学教育と情報」の発行とホームページで情報公開を行った。また、事業普及委員会では EDUCAUSE の機関誌について紹介すべき内容の吟味をしたが、平成30年度は該当なく翻訳は実施しなかった。以上の他、公益目的事業の理解の普及を図るため、事業活動報告交流会を関東除く5地域で実施した。

(1) 機関誌「大学教育と情報」の発行

6月、9月、12月、3月の4回に亘り、80頁の規模で全国の大学・短期大学、文部科学省・関係団体、賛助会員を対象に以下の方針で、11,700部発行した。

- ① 公益目的事業に対する理解の促進を図るため、事業活動の内容に加えて ICT を活用した大学教育の改善、新しい視点による情報教育改善の取組み、国や関係機関の審議動向、マスコミ報道などを踏まえ、時宜に適ったインパクトのある情報を提供するようにした。
- ② 上記の方針に沿って、特集では、「データサイエンス教育を知る」、「データサイエンスと教育」、「AI人材、AI活用人材の育成を考える」、「情報セキュリティ」を掲載することにした。
- ③ 教育改革に組織的に取り組む事例を紹介するため、「教育・学修支援の取組み」として、アクティブ・ラーニングの ICT 環境整備や教育・学修支援の取組みなどをテーマに事例紹介することにした。
- ④ 事業活動報告として、平成24年度に刊行した「大学教育への提言」（未知の時代を切り拓く教育と ICT 活用）に掲載の5年先を想定した30分野の「ICTを活用した教育改善モデル」を毎号掲載することで、大学に理解の普及を働きかけることにした。また、私情協ニュースとして、公益活動の事業経過を詳細に報告するとともに、補助金要望の状況についても掲載することにした。
- ⑤ 政府関係機関事業紹介として、国立情報学研究所から協力の要請があり、クラウドサービスに関して、導入チェックリストやクラウドオンデマンド構築、クラウド利活用などの関係情報を掲載した。

以下に、平成30年度に4回発行した目次を掲載する。

大学教育と情報(2018年度 No.1:30年6月)

- ・巻頭言「未来を拓く耕雲種月ー学生ファーストから始める教育転換ー」 青木 茂樹
- ・特集「データサイエンス教育を知る」
 - 「大学の数理・データサイエンス教育強化に向けた取り組み」
 - 「データ駆動型超スマート社会を支えるデータサイエンス教育」 渡辺美智子
 - 「価値創造を目指すデータサイエンス学部教育の開発と産官学との連携」 竹村 彰通
 - 「D-DATa & スマートエスイー:早稲田大学における大学院生や社会人対象の高度データ人材育成の取り組み」 鷺崎 弘宜
 - 「上智大学が考える、未来を生きる学生のためのデータサイエンス」 小松 太郎
 - 「立教大学における『データサイエンス副専攻』」 山口 和範
 - 「同志社大学文化情報学部におけるデータサイエンス教育」 宿久 洋
 - 「横浜市立大学データサイエンス学部 2018年4月始動」 岩崎 学
- ・教育・学修支援への取り組み [畿央大学]
- ・政府関係機関事業紹介
- ・私情協ニュース
- ・事業活動報告 「ICTを活用した教育改善モデル(栄養学分野)など」
- ・募集
- ・賛助会員だより

大学教育と情報(2018年度 No.2:30年9月)

- ・巻頭言「日本 IBM と共同開発した『AI 活用人材育成プログラム』の開講」 村田 治
- ・特集 「データサイエンスと教育」
 - 「超スマート社会に向けたデータサイエンス人材育成」 樋口 知之
 - 「デジタル社会に求められる人材」 野村 典文
 - ～産学連携による教育イノベーション～
 - 「全学的な数理・データサイエンス教育の取り組みと展望」 齋藤 政彦
 - 「広島大学情報科学部におけるデータサイエンスとインフォマティクスの統合的学部教育」 木島 正明
 - 「慶應 SFC における未来創造のためのデータサイエンス教育」 平嶋 宗
 - 古谷 知之
 - 植原 啓介
 - 中島 伸介
 - 濱砂 幸裕
 - 山下 洋一
 - 上林 憲行
- 「AI やビッグデータを問題解決に役立てるデータサイエンティストの養成」
- 「近畿大学におけるデータサイエンス教育の事例紹介」
- 「立命館大学情報理工学部におけるデータサイエンスに関わる教育」
- 「武蔵野大学データサイエンス学部(開設予定)の挑戦:スマートクリエイティブなデータサイエンティストの育成」
- ・教育・学修支援への取り組み [流通経済大学]
- ・政府関係機関事業紹介
- ・私情協ニュース
- ・事業活動報告 「ICTを活用した教育改善モデル(統計学・機械工学分野)など」
- ・募集
- ・賛助会員だより

大学教育と情報(2018年度 No.3:30年12月)

- ・巻頭言「大学はどこにむかうのか？」 三木 義一
- ・特集 「AI 人材、AI 活用人材の育成を考える」
 - 「日本の AI 戦略と人材育成」 安西祐一郎
 - 「AI 時代の働き方」～直観力を鍛える～ 玄田 有史
 - 「AI と共存する未来」 岸 浩稔

「関西学院大学と日本 IBM との AI 共同プロジェクト」 ～AI 活用人材育成プログラムとキャリア支援 AI チャットボット～	巳波 弘佳
「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムと東京大学の取り組み」	駒木 文保
「フィンテックが迫る大学教育の改革と慶應義塾大学での取り組み」	中妻 照雄
・教育・学修支援への取り組み [桃山学院大学]	
・政府関係機関事業紹介	
・私情協ニュース	
・事業活動報告「ICT を活用した教育改善モデル(看護学分野)など」	
・募集	
・賛助会員だより	
大学教育と情報(2018 年度 No.4:31 年 3 月)	
・巻頭言「グローバル・コンピテンシーを養い、異分野融合のイノベーションを起こす」	福原 紀彦
・特集「情報セキュリティ」	
「IoT におけるサイバーセキュリティの現状と将来の可能性」	高倉 弘喜
「大学でのサイバーセキュリティ対応体制のステップアップに向けたヒント」	洞田 慎一
「ベンチマーク評価で先進的取り組みをしている大学事例の紹介」	沼 将博
「情報セキュリティベンチマーク評価結果から見た課題」	浜 正樹
・政府関係機関事業紹介	
・事業活動報告「ICT を活用した教育改善モデル(法学・歯学分野)など」	
・募集	
・賛助会員だより	

(2) インターネットによる情報公開・配信・意見収集

本協会の公益目的事業の活動を社会に紹介し、理解の普及を図るため、ホームページの枠組みを事業活動に連動できるよう、「望ましい教育改善モデルの探究」、「情報教育のガイドライン」、「高度な情報環境づくり」、「大学連携・産学連携の推進」、「教職員の教育力向上」、「高度情報化の支援」、「分野別研究発表の検索」を設定し、事業の活動報告としての成果物及び各種委員会の議事概要を公開した。また、事業ごとにインターネットで意見・要望を収集するため入力サイトを設け、事業の点検・評価・改善を行っている。

6-2 事業活動報告交流会の実施

公益事業に対する理解の普及と協力を得ることを目的に、全国の大学・短期学の関係者を対象に12月3日に関西・中四国地域(会場:関西大学)、12月6日に九州地域(会場:福岡大学)、12月10日に東北地域(会場:東北工業大学)、12月11日に北海道地域(会場:北海学園大学)、12月18日東海地域(会場:静岡産業大学)にて、向殿会長、事務局長が出向して実施した。5地域で27大学、197名が参加し、その内、非加盟校は6大学で10名(5%)であった。教員の参加は、53名(27%)、職員144名(73%)で教員は昨年度より22名増加した。

以下に、参加教員の約4割、参加職員の約3割によるアンケート結果の概要を報告する。

(1) 事業活動に関する感想

教員、職員とも多くの事業活動を展開しており、非常に参考になったとの感想が寄せられた。その中で幾つかを紹介する。

① 教員からの感想

- ※ 「大学が危惧されている教育現状と ICT、クラウドを用いた新しい授業の形を示していただき、学内で今後の取り組みを加速させる必要があると考えます。破壊的創造を大学内で起こすことの難しさを感じつつ、新たな取り組みを準備していく必要を感じた」
- ※ 「最近の AI 導入に伴う社会の中で文部科学省などがどのような施策を考えているのかよく分かり、とても参考になった」
- ※ 「改正著作権法に関する課題の説明が大変参考になった。学生の個人情報はどう扱うか、成績などデータとしてそれを指導に使う場合、注意点が良く分かった」
- ※ 「非常に興味深い役に立つ内容の活動が多いと思う」

② 職員からの感想

- ※ 「AI、IoT、ビッグデータ、ロボットなどの技術革新により、社会や産業のイノベーションが進んでいる現状を詳しく知ることができた。大学教育の有り様について考えさせられ、ヒントをたくさん紹介いただいた」
- ※ 「遠隔参加等の機会が増えると参加しやすくなるので、可能な場合には案内いただきたい」
- ※ 「多様で幅広い活動をされていることがよく分かる。時代の求めるものに対して事業活動されていることもありがたいことだと思った」
- ※ 「教育のオープンイノベーションの促進が不可欠であるという説明とその促進のための協会の取り組みが大変参考になる」

(2) 報告交流会の運営に関する要望・感想

① 教員

- ※ 「ネット社会の進化とはいえ、地方の大学にとってはこういった機会は貴重ですので毎年継続いただきたい」
- ※ 「参加人数が少ないと今後縮小されないか心配ですが、継続していただきたい」
- ※ 「地方の大学にとって中央の動きを知ることができる重要な機会なので、さらに拡充していくことが期待される」

② 職員

- ※ 「AI時代から大学教育のイノベーションを考える説明は、私情協の考えが理解でき有益であった。協会の方向性と展開例がとてもよく分かった」
- ※ 「非常に密度の濃い内容でしたので、他大学からの参加が少ないのはもったいないと思います。周辺地域からより多くの参加者が集まるような仕掛けが必要と思う」などであった